

県民の政治意識 第14回モニター調査 報告書

(2002年2月12日～14日調査)

I	調査の設計	1
II	結果の概要	3
III	単純集計	5



社団法人 長野県世論調査協会

Tel 026-233-3616 Fax 026-233-3610
<http://www.nagano-yoron.or.jp>

I 調査の設計

◆調査の目的

1年に2度実施し7年目に入った「県民の政治意識モニター調査」は今回で第14回。世論の強力な支持をバックに改革路線を主導してきた小泉首相は、外務省のアフガン復興支援国際会議へのNGO出席拒否問題をめぐる田中真紀子外相の更迭により支持率を急落させ、政権基盤が大きく揺らいだ。

参院選の自民党勝利をうけた昨年8月の前回調査からのこの半年間、米国中枢同時テロとそれに続くアフガン攻撃、自衛艦初の海外派遣、有事法制の本格着手、と日本の内外の環境はあわただしさを増した。外務省改革と外交の停滞が表裏を成すかたちだった“田中外交の清算”ではあったが、小泉首相はこれまでにない楽観を許さない状況に置かれている。

失業率がさらに高まり、景気回復が見えにくい情勢の下、一連の構造改革の試みに“抵抗勢力”と称される与党内の包囲網が強まり、予算国会での野党の追及も本格化。封じられてきた内閣改造が見え隠れし、政局の展開次第によっては、衆院解散の可否が浮上する微妙な段階に至った。

こうした政治、経済の環境変化を見つめながら、県民はどのように政治を評価し、期待感を持っているのか、発足1年4カ月の田中県政の評価を併せ、協会モニターを通じて意識の流れを追跡する。

◆調査の設計

▽調査方法 当協会の登録モニターに事前に調査票を郵送し、電話で回答を聞く方式。

【モニター～継続的な調査対象者】

1995年6月の参院選直前、県下の満20歳以上の1000人を対象に、政治意識調査を実施。その際、追跡調査に協力できるという人たち678人を対象に、選挙直後の同年7月に「参院選の投票行動」調査を行った。

これを「第1回モニター調査」と位置付け、それ以降は男女別、年代別、選挙区別などの比率が“県下の有権者の縮図”となるようにサンプル対象者を選定して、96年2月に第2回調査を行い、さらに半年間隔で年2回ずつ、定期的に続行している。この間、モニターは若干補正し、現在の登録数は500人。

▽調査時期 2002年2月12日～14日

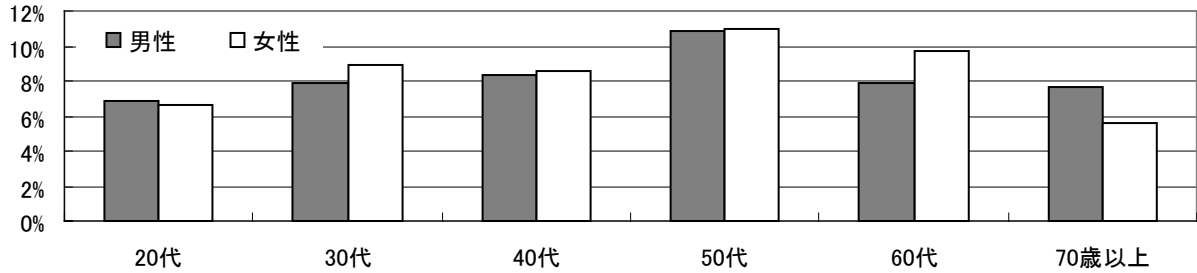
▽有効回収数(率) 481人(96.2%)

<注>報告書のパーセント数字は小数点第2位を四捨五入。合計が100にならない場合がある。

◆サンプルの内訳

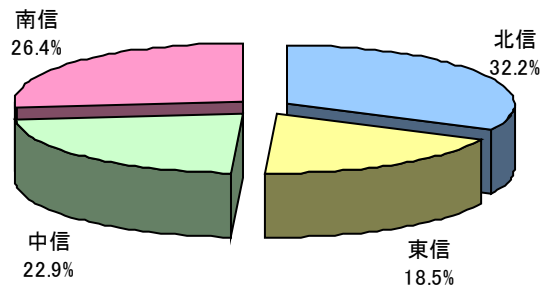
【性別と年代】

	合計	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
全体	481	65	81	81	105	85	64
	100.0%	13.5%	16.8%	16.8%	21.8%	17.7%	13.3%
男性	238	33	38	40	52	38	37
	49.5%	6.9%	7.9%	8.3%	10.8%	7.9%	7.7%
女性	243	32	43	41	53	47	27
	50.5%	6.7%	8.9%	8.5%	11.0%	9.8%	5.6%



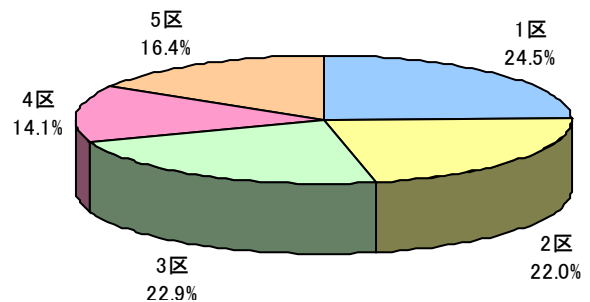
【地域】

北信	155	32.2%
東信	89	18.5%
中信	110	22.9%
南信	127	26.4%



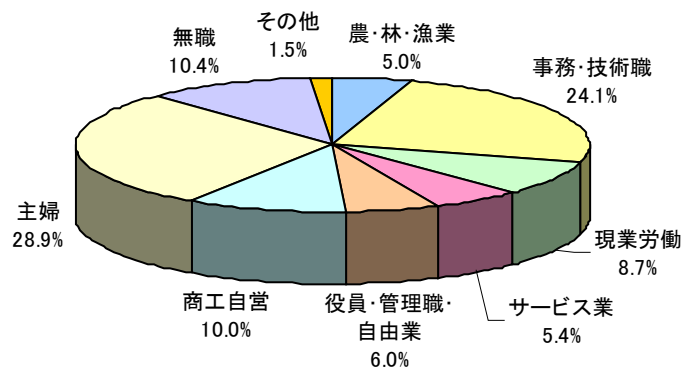
【選挙区】

1区	118	24.5%
2区	106	22.0%
3区	110	22.9%
4区	68	14.1%
5区	79	16.4%



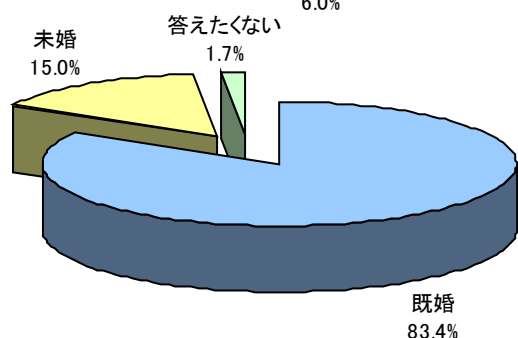
【職業】

農・林・漁業	24	5.0%
事務・技術職	116	24.1%
現業労働	42	8.7%
サービス業	26	5.4%
役員・管理職・自由業	29	6.0%
商工自営	48	10.0%
主婦	139	28.9%
無職	50	10.4%
その他	7	1.5%



【結婚の有無】

既婚	401	83.4%
未婚	72	15.0%
答えたくない	8	1.7%



Ⅱ 結果の概要

国政、県政で共に「改革」を主導し、複雑な利害バランスの中でかじ取りが注目されている小泉純一郎首相と田中康夫知事に対して、今回調査はかなり厳しい評価になった。個人的人気は一巡し、改革の具体的な成果を問う視線がことのほか厳しさを増した結果とみられる。

モニター対象の定例調査では、従来から政治、経済動向には敏感に反応する側面がみられる。▽1年前の発足4カ月の田中知事支持87%の高さ▽昨年夏の参院選勝利後の小泉内閣に対する支持率57%の低さーに現われたように、その後に出される一般市民対象の単発調査の“先行的な指標”の役割も果たしている。

暗いトンネルから抜け出せない経済状況下で、国政・県政の具体的な成果が見えにくいことに、モニターの視線は厳しくなっており、今後の展望に冷え込みが強まっているようだ。

①内閣支持と政治の満足度

今の政治に対し、おおむね「満足する」は2割に届かず「不満足」は総体で8割半ばに達した。

小泉内閣・首相を「支持する」は26.8%、「支持しない」が32.4%。世論の追い風から急転、支持率は前回調査から30ポイント強の下落、不支持が20ポイント弱増えた。「なんともいえない」が40.7%で、支持と不支持の双方を上回った。

支持理由では「首相の政治姿勢が好ましい」が前回に引き続きトップだが「ほかに適当な人がいない」が伸びて並んだ。対照的に「政策に期待できる」は下位に置かれた。

不支持の理由は、トップの「政策に期待できない」は前回と同様。「政治姿勢が好ましくない」が上位に上がり、自公保連立に対する風当たりは弱まった。

②構造改革と国政課題の取り組み

国政課題の重要度では「景気・雇用」が他を引き離して前回より増え7割近く。次いで「行政・財政」。3位には「福祉・医療」が上がり「教育」と入れ替わった。

これをうけて財政構造改革よりも「景気・雇用対策を優先すべきだ」という声はさらに強まり7割を超えた。“構造改革の痛み”には5割強が「セーフティーネットを見極めたい」との態度。基本的に「受け入れてもよい」が「受け入れられない」を上回るという結果は前回と変わらない。

構造改革の取り組みで個々の見直しについて「評価する」が比較的高いのは「特殊法人」と「郵政事業」。逆に「医療費」には「評価しない」が6割近く。「不良債権」「地方交付税」にも批判的な反応が多かった。

最近の国政課題をめぐる小泉内閣の取り組みでは「田中真紀子外相の更迭」に対して「評価しない」が7割を突破し「狂牛病」と「失業」でも、同レベルの厳しい評価だった。「同時テロに伴う対米支援」では「評価する」が4割台で「評価しない」を上回った。それに関連して本格的に提起された「有事法制」では「評価する・しない」が相半ばした。

③政党支持

内閣支持の急展開をうけて、政党の支持状況も大きく様変わりした。自民党 23.3%、民主党 13.3%と共に支持率を下げ順位は変わらない。3位には公明党、共産党が同率で並び、僅差で社民党、自由党が続く。

「支持政党なし層」は自民党、民主党の落ち込みを吸収するかたちで 45.5%と 20ポイント増え、前回自民党が占めた実質トップの座に戻った。

「支持する政党の評価する点」では「政策の現実性」がトップを維持したが、前回同率首位にランクされた「党首の魅力」が5位に後退した。「主義主張の一貫性」と「安定感・頼りがい」の上位は変わらない。

無党派層の評価では「政治・政党への不満・不信の現われ」がトップのままさらに増えた。「政治家個人が中心の選挙が背景にあるから」が2位に上がった。

この1年間で「政党支持を変えた」のは2割強で「変えていない」が7割半ば。自民党、民主党の流動性が4割前後と高く、変えた理由では「政党への期待感・イメージ」が「政策」や「党首」よりも重視されている。

「政治・政党の再編成」には「期待する」がやや伸びて6割に達した。

④田中知事の支持率

田中知事に対して「支持する」は 50.5%。1年前の発足4カ月当時（86.8%）に比べて大幅に減った。しかし「支持しない」は 16.4%とわずか伸びた程度で「なんともいえない」が 33.1%と大幅に増え、支持層はこちらにシフトしたように見える。

評価する点は「県政を変えようとしている」と「県民と対話し現場に出かけている」の上位は前回と変わらない。その半面「施策に期待できる」は下位に下がった。

評価しない点では「考え方が場当たりので分かりにくい」「行政本来の手法が軽視されている」など順位に変化はない。

⑤県政課題の取り組み

田中県政の各分野で「進展・成果が出ている」との受けとめは、県政全般については肯定的な感度が若干多めだが、半数は「なんともいえない」が占める。個々の施策で比較的肯定的なのは「行革・財政」と「情報・通信」。逆に否定的なのは、比率が高い順から「雇用・企業振興」「商業・観光」「福祉・医療」。全般的に「なんともいえない」の度合いが最も高い。

⑥日本の先行き不安

「景気の行方」が連続して「日本の将来不安」の筆頭に挙げられ、それと背中合わせの「雇用の不安」が二番手に上がった。3位は前回と同じ「ふくれる財政赤字」で、4位には「政治の不安定・不信」が前回12位から急浮上した。5位に「経済の国際競争力の低下」（前回9位）が伸びたのも注目される。

前回まで上位の「犯罪の増加」や「社会保障・福祉の水準低下」などは、後方に下がり「国の安全保障」や「エネルギー不安」の下位は変わらない。

Ⅲ 単純集計

◆「政治に不満足」8割半ば 自民支持層でも6割超す

問1 国民の期待や信頼に照らしてみても、今の政治に満足していますか		
大いに満足	1	0.2%
どちらかといえば満足	65	13.5%
どちらかといえば不満足	276	57.4%
全く不満足	139	28.9%
なんともいえない・わからない	0	-

◆断然トップ「景気・雇用」さらに重き

問2 国の政治の課題として、どれが最も重要だと思いますか		
景気・雇用	327	68.0%
行政・財政	90	18.7%
福祉・医療	35	7.3%
教育	15	3.1%
安全保障・外交	1	0.2%
その他	2	0.4%
なんともいえない・わからない	11	2.3%

◆内閣「支持」26.8% 「不支持」32.4% 「なんともいえない」40.7%

問3 小泉内閣を支持しますか		
支持する	129	26.8%
支持しない	156	32.4%
なんともいえない	196	40.7%

◆支持「ほかに適当な人いない」トップに並ぶ

問4 支持する理由は何ですか(2つ以内)		
首相の政治姿勢が好ましいから	61	47.3%
ほかに適当な人がいないから	61	47.3%
小泉純一郎さんが首相だから	42	32.6%
政策に期待できるから	35	27.1%
自民党中心の内閣だから	21	16.3%
自民党・公明党・保守党の連立内閣だから	17	13.2%
その他	1	0.8%
なんとなく・とくに理由はない	0	-

問5 支持しない理由は何ですか(2つ以内)		
政策に期待できないから	127	81.4%
首相の政治姿勢が好ましくないから	84	53.8%
自民党中心の内閣だから	45	28.8%
自民党・公明党・保守党の連立内閣だから	24	15.4%
小泉純一郎さんが首相だから	10	6.4%
ほかに適当な人がいないから	3	1.9%
その他	8	5.1%
なんとなく・とくに理由はない	1	0.6%

◆「財政改革より景気・雇用の優先を」7割に増加

問6-A 「構造改革に伴う痛み」をどう受け止めますか		
痛みを和らげるセーフティーネットを見きわめたい	255	53.0%
基本的に受け入れてもよい	125	26.0%
基本的に受け入れられない	97	20.2%
なんともいえない・わからない	4	0.8%
問6-B 財政構造改革と景気・雇用対策のどちらを優先すべきだと思いますか		
景気や雇用の対策を優先すべきだ	343	71.3%
構造改革を優先すべきだ	132	27.4%
なんともいえない・わからない	6	1.2%

◆「特殊法人」「郵政」で評価 「医療費」には厳しく

問7 あなたは、構造改革に掲げているこの見直し・取組みについて、どう受けとめますか		
A 地方交付税		
評価する	92	19.1%
評価しない	122	25.4%
なんともいえない	267	55.5%
B 不良債権		
評価する	117	24.3%
評価しない	196	40.7%
なんともいえない	168	34.9%
C 特殊法人		
評価する	191	39.7%
評価しない	122	25.4%
なんともいえない	168	34.9%
D 郵政事業		
評価する	175	36.4%
評価しない	113	23.5%
なんともいえない	193	40.1%
E 医療費		
評価する	83	17.3%
評価しない	280	58.2%
なんともいえない	118	24.5%

◆「外相更迭」「狂牛病」7割強評価せず 「有事法制」相半ば

問8 あなたは、一連の国政課題に対する小泉内閣の取組みをどう受けとめますか		
A 狂牛病		
評価する	50	10.4%
評価しない	343	71.3%
なんともいえない	88	18.3%
B 失業		
評価する	21	4.4%
評価しない	346	71.9%
なんともいえない	114	23.7%
C 同時テロに伴う対米支援		
評価する	193	40.1%
評価しない	114	23.7%
なんともいえない	174	36.2%
D 有事法制		
評価する	117	24.3%
評価しない	121	25.2%
なんともいえない	243	50.5%
E 田中真紀子外相の更迭		
評価する	47	9.8%
評価しない	352	73.2%
なんともいえない	82	17.0%

◆自民23.3% 民主13.3%—共に下降 「支持政党なし層」45.5%

問9 どの政党を支持しますか		
自民党	112	23.3%
民主党	64	13.3%
公明党	23	4.8%
共産党	23	4.8%
社民党	21	4.4%
自由党	14	2.9%
保守党	2	0.4%
その他の政党	0	-
支持する政党はない	219	45.5%
答えたくない・わからない	3	0.6%

◆「政策の現実性」「主張の一貫性」「安定感」上位変わらず

問10 支持する政党のどんな点を評価し、期待していますか(2つ以内)		
政策の現実性	78	30.1%
主義主張の一貫性	67	25.9%
安定感・頼りがい	65	25.1%
長期的な視点	56	21.6%
党首の魅力	52	20.1%
革新的な姿勢	46	17.8%
清潔なイメージ	38	14.7%
日本国憲法への姿勢	26	10.0%
中道的な姿勢	25	9.7%
開かれた党運営	21	8.1%
保守的な姿勢	12	4.6%
その他	6	2.3%
なんともいえない・わからない	3	1.2%

◆「政治・政党への不満・不信」の次に「政治家個人中心の選挙」浮上

問11 「支持政党なし(無党派)層」について、どのようにお考えですか(2つ以内)		
政治・政党への不満、不信の現われ	343	71.3%
政治家中心の選挙が背景がある	133	27.7%
政治に対して無関心、無責任	123	25.6%
政党の努力しだいで減っていく	119	24.7%
自由に1票を行使している	60	12.5%
政治を不安定にさせている	46	9.6%
棄権が多く投票率を下げる一因	40	8.3%
政治に関心の高い人が多い	30	6.2%
選挙での波乱要素	26	5.4%
その他	3	0.6%
なんともいえない・わからない	4	0.8%

◆支持「変えた」23.3% 「変えていない」76.5%

問12 およそ1年前の政党支持を変えましたか		
変えていない	368	76.5%
変えた	112	23.3%
はっきりしない	1	0.2%

◆民主、自民からの“流出率”4割前後と高く

問13 変わる前の政党支持はどうでしたか		
民主党	46	41.1%
自民党	42	37.5%
社民党	7	6.3%
自由党	5	4.5%
共産党	4	3.6%
公明党	1	0.9%
保守党	0	-
その他の政党	0	-
支持する政党はなかった	7	6.3%
答えたくない	0	-

◆「政党への期待感・イメージ」が最も多く

問14 政党支持を変えたのは、どのようなことが主な理由になりましたか		
政党への期待感・イメージ	39	34.8%
政治全体に対する評価	30	26.8%
政策の内容・実現性	21	18.8%
党首への信頼感・指導力	19	17.0%
その他	3	2.7%
なんとなく・わからない	0	-

◆「期待する」やや増えて6割台

問15 「政治・政党の再編成」が今後行われることを期待しますか		
期待する	289	60.1%
期待しない	190	39.5%
なんともいえない・わからない	2	0.4%

◆田中知事「支持」50.5% 「支持せず」16.4% 「なんともいえない」33.1%

問16 田中知事を支持しますか		
支持する	243	50.5%
支持しない	79	16.4%
なんともいえない	159	33.1%

◆「県政改革」と「対話・現場主義」への共感変わらず

問17 田中県政を支持する・しないにかかわらず、評価する点があるとすれば主にどんなことですか(2つ以内)		
長野県政を変えようとしている	368	76.5%
県民と対話し現場に出かけている	317	65.9%
長野県が全国的に注目されるようになった	127	26.4%
考え方が新鮮でわかりやすい	48	10.0%
施策が期待できる	38	7.9%
知事の人柄が好ましい	16	3.3%
その他	4	0.8%
とくにない・わからない	6	1.2%

◆「場当たりの」「従来の行政手法の軽視」上位に並ぶ

問18 田中県政を支持する・しないにかかわらず、評価しない点があるとすれば主にどんなことですか(2つ以内)		
考え方が場当たりのでわかりにくい	187	38.9%
行政本来の手法が軽視されている	171	35.6%
県政の継続性が貫かれていない	115	23.9%
施策に期待できない	78	16.2%
知事本来の仕事に専念していない	71	14.8%
知事の人柄が好ましくない	59	12.3%
その他	26	5.4%
とくにない・わからない	71	14.8%

◆施策全般の成果「出ている」27.0% 「わからない」50.7%

問19 あなたは、田中県政ではどんな分野の施策で進展、成果が出ていると思いますか		
A 行革・財政		
そう思う	176	36.6%
そう思わない	103	21.4%
なんともいえない	202	42.0%
B 情報・通信		
そう思う	198	41.2%
そう思わない	80	16.6%
なんともいえない	203	42.2%
C 福祉・医療		
そう思う	85	17.7%
そう思わない	136	28.3%
なんともいえない	260	54.1%
D 商業・観光		
そう思う	79	16.4%
そう思わない	159	33.1%
なんともいえない	243	50.5%
E 雇用・企業振興		
そう思う	25	5.2%
そう思わない	226	47.0%
なんともいえない	230	47.8%
F 県政全般		
そう思う	130	27.0%
そう思わない	107	22.2%
なんともいえない	244	50.7%

◆日本の不安－「景気」「雇用」とび抜けて「政治」「国際競争力」急上昇

問20 日本の将来を考えると、とくに心配したり、不安に思うことがありますか(5つ以内)		
景気の方行	274	57.0%
雇用の不安	244	50.7%
ふくれる財政赤字	191	39.7%
政治の不安定・不信	188	39.1%
経済の国際競争力の低下	184	38.3%
犯罪の増加	174	36.2%
社会保障・福祉の水準低下	172	35.8%
官僚依存型の社会の体質	166	34.5%
高齢化と少子化	156	32.4%
進まない行政改革	140	29.1%
モラルの低下	131	27.2%
青少年の教育・育成	123	25.6%
地球環境・自然破壊	118	24.5%
国の安全保障	70	14.6%
エネルギー不安	26	5.4%
女性の地位向上の遅れ	14	2.9%
とくにない・わからない	0	-